

産廃処理の総合専門誌いんだすと

# INDUST

2013 FEBRUARY

NO.304

2



produced by Designers union

特集

## 産廃処理業における CSRの意義

——ステークホルダーへの理解を深めるために



産廃処理業におけるCSRの意義  
——ステークホルダーへの理解を深めるために

事例 5

社会貢献部門 環境省産業廃棄物課長賞

# 東日本大震災 被災地支援プロジェクト

村山 広幸

(株)村山興業 代表取締役

はじめに

この度は全国産業廃棄物連合会青年部協議会が企画されました『CSR2プロジェクト』の「社会貢献部門」において環境省産業廃棄物課長賞をいただきましたことを、まずは御礼申し上げます。

東日本大震災の発生

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分 18.1 秒、太平洋三陸沖を震源として発生した地震は東日本大震災を引き起こし、東日本を中心に甚大な被害をもたらした。その後の被災地沿岸部、内陸部、原発周辺の状況はマスコミ等を通じてご承知の通りである。

当社においては翌日深夜に発生した、長野県北部地震の被災地でもあったが、幸いにも直接的な被害はなかった。

以前、当地においても甚大な被害をもたらした中越地震（平成 16 年）、中越沖地震（平成 19 年）において、緊急対応、その後の復興を経験した当社へ被災地に関連したお客様から燃料運搬（軽油・灯油・ガソリン）の依頼がきた。

当社は震災後、3 日目くらいから宮城、岩手、青森へ燃料運搬を行った。2 人 1 車両で約 20 日間にわたり往復し、総走行距離は約 1 万キロメートルにもおよんだ。運搬依頼が入った段階で、過去の経験を活かし、被災地の方が本当に今すぐに必要な物



山元町でのがれき撤去

資（主に子供、女性対象物資）を購入し、毎回行く先々で支援をした。震災当初の磐越道は車両の通行が少なく、新潟・郡山間で 1 台もすれ違わなかったこともあった。東北道に関しては道路の大規模な亀裂等ではなかったが、段差が激しく、車内の小物が何回も散乱し、車両の故障及び、交通事故等に巻き込まれる恐れを感じながら走行したことを記憶している。

その後、4 月に入ると地元の関連企業から宮城県亘理郡山元町で、津波によるがれき撤去（行方不明者の捜索も含む）の要請が入り 4 月 5 日から重機、車両を被災地へ送り込んでの作業が始まった。被災地では、国道 4 号線の 5 メートルくらい手前まで津波が押し寄せており、松の木、家、車、ありとあらゆるものが見渡す限り流れ着いていた。“まったく先が見えないな”というのが最初の感想である。

陸上自衛隊の指揮のもとで救援活動

実際の救援活動は、陸上自衛隊第 10 特科連隊（愛知県豊川市の豊川駐屯地に駐屯する第 10 師団の隷下部隊）の指揮のもと、まずは行方不明者の捜索、その次に車、家、生木、その他さまざまなものがれき類を通行できる道路のそばまで移動、最後に一時集積場まで、ダンプで移動させるという作業で、自衛隊の情報では、依然として 700 名の方がまだ行方不明とのことであった。乗り込み日から祝祭日返上で連続の救援活動が 5 月 24 日までの 50 日間続いた。被災地での救援活動にあたり、当社が今まで経験した震災時におけるノウハウをフルに活用し、予想される全ての機材、道具等を持参し（ご遺体が発見された時を想定して、お線香、ろうそくも持参した）、現地での資材調達、重機等の修理などは自社で行うべく努力した。当然、廃棄物処理業者としての責任において、少量のごみでも車内にごみ袋を用意持ちかえるよう事前打ち合わせをした。重機、ダンプの燃料は自衛隊からの支給であったので、当時の燃料不足の中では安心して救援活動に集中できた。

本プロジェクトの目的と活動

本プロジェクトの目的は、産業廃棄物処理業、建設業関連としての専門的、直接的な支援ではなく、震災当初から継続して燃料運搬している当社運輸部の物資支援のほか、新潟県と被災地の知り合いの紹介等を通じて、仮設トイレ運搬（気仙沼市）、生活用品、他支援物資ボランティア、燃料支援 3000 リットル（石巻市、須賀川市）、炊き出しボランティア、燃料支援 2000 リットル、義援金寄付（大船渡市）を行うものであった。特に支援物資に関しては本社事務所で大量に購入した中から、毎日現地入りしている車両からの情報をもとに運搬先で不足している物資を支援した。そのほか、地元十日町有志の情報をもとに燃料支援、炊き出しボランティア、義援金等の支援も行った。特に気を使ったところは震災から少し時間が経過していることから、被災さ



石巻市での燃料支援

れた方の心情を考慮し、言葉遣い、仮設トイレの持参等、ひとつひとつの行動に配慮をしながら支援活動を行った。

また、今回の「CSR2 プロジェクト」の報告書へは記載しなかったが、石巻市の水産加工会社工場内のがれき撤去へも参加した。これは当社がすでに仙台市内において解体工事をしていたため運搬車両を提供すべく現地での合流となった。当社運転手は被災地での交通事情、がれき集積場でのルール、撤去作業に必要な機材等も把握しており、撤去作業においてもスムーズに行うことができた。

社員一人ひとりへ感謝

大自然の猛威は所かまわず、また、時期を問わずして私たちの社会に現れる。そして、悲惨という災害を発生させ、生活の歯車を狂わせ、幸せな日々を送っていた人々の“絆”を奪っていく。かつて当地においても数々の震災・災害を経験し、克服してきた。その経験を活かし、できる限り早期に元の生活環境に戻すべく初動時における緊急支援とあわせて、私たちは日夜を問わず復旧・復興に取り組む企業として社会的責任を果たしてゆくとともに、有事の際、困っている方々へ手を差し伸べる行動を人間由来の本能とする我が社の社員一人ひとりへ感謝したい。

おわりに

最後に、東日本大震災、長野県北部地震で被災された方へのお見舞いと、お亡くなりになられた方へのお悔やみ、そして依然、行方不明の方の早期救助を願います。 合掌